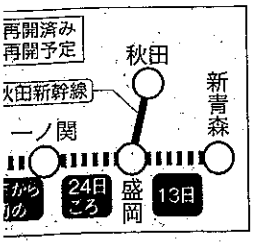
東北新幹線

福島―那須塩原が再開

東京までつながる



東日本大震災で運休していた東北新幹線の那須塩原（栃木）―福島駅間は十二日、運転を再開した。同日、東北線の福島―仙台駅間で臨時快速列車の運転も始まり、福島での乗り換えで東京―仙台駅間がつながった。

暫定ダイヤは東京―福島駅間が上下線四十三本で、二十七日ごろの東北新幹線福島―仙台駅間の復旧まで。今後の新幹線の運転再開は「今までは高速バスで新潟や那須塩原を経由し移動していた。仙台までは東北線で帰るが、時間は新幹線の倍ほどかかる」と福島以北の復旧を心待ちにしていた。

孫の恵莉奈さん（三）に合うため栃木（那須塩原市に向かっていた

県学校等環境放射線ダスト・土壌モニタリング実施結果

学校名	大気中放射能濃度（ベクレル／立方メートル）		土壌放射能（ベクレル／キロ）	
	ヨウ素	セシウム	ヨウ素	セシウム
福島一小	1.044	4.022	8193	6550
福島市大久保小	—	—	5945	7627
二本松市岳下小	2.941	—	6216	12026
伊達市保原小	—	—	5653	8286
川俣町山木屋小	—	—	29944	29115
郡山市金透小	1.977	—	3096	5754
郡山市熱海小	—	—	1700	2688
須賀川二小	—	—	1236	5033
田村市船引小	1.394	—	1573	1675
平田村蓬田小	—	—	597	1688
白河一小	—	—	717	759
会津若松市鶴城小	—	—	497	980
喜多方一小	—	—	259	615
南会津町田島小	—	—	—	—
南相馬市原町一小	8.796	1.056	2822	4315
相馬市中村一小	—	—	1588	2533
浪江町津島小	2.610	10.043	20391	18545
いわき市平一小	4.041	—	4850	913
いわき市勿来一小	4.713	—	1255	559
いわき市四倉小	4.664	—	6183	1407

近く開校判断基準

放射性物質検出で文科省

県内

文部科学省が十二日発表した県内の小学校二十校を対象にした放射性物質調査では、敷地内の土壌も測定した。川俣町立山木屋小で土一㌔当たりヨウ素二万九九四四㍉㌃、セシウム二万九一一五㍉㌃を検出。ほかの十八校で、ヨウ素二五九～二万三九一㍉㌃、セシウム五五九～一万八五四五㍉㌃を検出した。

土壌には基準値は設けられていない。文科省は大気中のデータも参考にして、県内の小中学校を開校できるかどうか、近く判断基準を示す。

文科省はまた、福島第一原発の沖合約三十㌔で十一日に採取した海水から一㍑当たり放射性ヨウ素八八・五㍉㌃を検出したと発表した。法令の濃度限度は同四〇㍉㌃。

「作っても売れるのか」

県内農家、募る不安

粛自地域 付け外 作付対象

十二日に発表された農用地の汚染実態に関する再調査の結果。作付け自粛対象から外れた市町村や地域の農家の思いは複雑だ。「本当に大丈夫なのか」「作っても売れるのか」。今回の事態の原因となった原発事故の収束が見えない中、手放しでは喜べない状況が続く。

「大丈夫といわれても、正直、不安な気持ちの方が強い」。大玉村でニンニクを約十二

緊急線量調査始

県全域 15日までに

県は十二日から県内の高校や都市公園、商業店舗、道路や駅などの交通機関、集会所などの緊急放射線量調査を開始した。十五日まで県内全域の二千七百五十七カ所を調べる。

初日は相双地区やいわき市など約七百カ所の放射線量を測定した。ことし、福島